

平成30年度
おみたま
ふるさと塾
閉講式



グループ討議発表

【発表テーマ】

「つながりのカタチ」

【発表】

- 「輪っ子」
- 「リーダー創生クラブ」
- 「ふれあい（交流）」



主催：小美玉市 / 後援：小美玉市まちづくり組織連絡会

平成30年度

おみたま
ふるさと塾
プログラム

1 開講式

ガイダンス

2 視察研修

先進事例を知る

3 グループ討議①

対話と共感①

4 グループ討議②

対話と共感②

5 報告会（閉講式）

活動を知る

おみたまふるさと塾（第1回）

目的：主体的・自主的にまちづくりを実践できる地域リーダーの養成

視点：価値観の変化・社会の変化・リーダーの変化

狙い：地域リーダーが生まれる土壌をつくる。

『まち』や『地域』を見つめなおす場づくり

なぜ、グループワークか？

手法① 価値感を認めあう『対話』づくり

手法② 『まち』と向き合う『気づき』の視点

最初の一步を踏み出す意識を醸成する。

おみたまふるさと塾（第2回）

視察①：まちづくり市民グループ「しもつま3高」

会長「住谷 辰夫」

【アンケートの声】

- ・笑顔での説明，一人ひとりを大事にしていると感じた。
- ・0歳から老人まで，学べる学校をイメージしていて，楽しさを感じた。
- ・サードプレイスの重要性を感じさせられた。
- ・参考になることが多くあった。
- ・市民の声によって，如何様にも変えられるところは参加者にとって魅力的ではないでしょうか。
- ・活動しながら，中身や施設を進歩させている。



視察②：NPOグランドワーク笠間

理事長「埴 茂」

【アンケートの声】

- ・身近な笠間で，市民の力で活性化を図っているところが素晴らしい。
- ・シニアの活躍する場とまちづくりを結びつけている。
- ・3人で立ち上げ，7年でこんな運営や建物が出るのかと感心した。
- ・社会や時代の見方が的確だから事業の規模も大きく早い展開が出るのではないのでしょうか。
- ・活動の輪を広げていこうとする心意気に感動した。



おみたまふるさと塾（第1・3・4回）

グループワーク

1：つながるポイントは？

2：つながりをひろげるには？

3：自分達が出来ることとは？

おみたまふるさと塾（第5回）



まちづくり認定組織活動報告会

報告会での総仕上げ

- ①まちづくり活動の多様性を知る。
- ②違う視点でまちづくり活動を見る。

最初の一歩を踏み出す意識へつなぐ

「つながりのカタチ」

チーム名

「輪っ子」

伊藤	由美子	(下高崎区)	矢口	のぞみ	(先後区)
羽鳥	幸子	(下高崎区)	千葉	美和子	(羽鳥区)
杉山	寿賀子	(みどり野区)	鶴町	みち子	(大宮区)
高野	秀彦	(西郷地区)	瀧澤	比佐乃	(駅前区)
浅野	日菜	(大井戸平山区)	舘川	岩夫	(二本松区)
小松	舞美	(市内在勤)	千葉	碧	(常磐大学)
横瀬	ゆかり	(常磐大学)	鶴岡	優	(常磐大学)

どこで『つながる』？

今の「つながり」を考える

【まちや地域とどこでつながっている？】

地区、町内会、市役所、地区コミュニティ、地区の清掃作業、シルバーの方、市のスポーツ事業への参加、地域のまつりごと、地域の行事、サークル、商工会、ふれあいまつり、幼稚園のOB会、中学校、子ども、子ども会、学校行事、学校、スポーツ（野球）、育成会、同級生、職場、仕事、同僚、家族など。

共通点で絞る

- ①「地域（自治会）」
- ②「学校・子ども」
- ③「仕事」
- ④「家族」

4

つの要素

さらにつながるためには

つながりをひろげるには

「今のつながり」がつながりやすくなるには
(つながりの共通点から、それぞれ考える)

① 地域・自治会



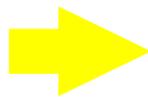
「イベント」「相談」「地域貢献」

② 学校・子ども



「開いた学びの場」「ボランティア」
「イベント」「見守り」

③ 仕事



「イベント」「外に出る」
「コミュニケーション」

④ 家族



「誕生日会」「旅行」「相談」
「地域交流」

つながりをひろげる為に、必要なコト。

つながる為に出来ること。

つながる為に自分たちができること

つながりを広げる要素は「イベント」。
イベントを「子ども向け」に設定して世代ごとに考えた。

『若者世代』

『親世代』

『高齢世代』

発信をする

アイディア
を出す

技術や経験
を伝える

3世代でつながるカタチ。

「つながりのカタチ」

チーム名

「リーダー創生クラブ」

澤田	悦雄	(第二東宝区)	鬼澤	征雄	(上吉影区)
田口	茂	(大宮区)	菊池	新吉	(飯前区)
羽鳥	光子	(下高崎区)	関	光徳	(柴高区)
中川	稔	(上吉影区)	斎藤	好美	(清風台区)
竹内	啓	(西郷地区)	杉山	奈津希	(市内在勤)
酒井	政暢	(市内在勤)	飛田	晃輔	(常磐大学)
佐藤	克弥	(常磐大学)			

どこで『つながる』？

今のつながりを考える

【自分たちはどこでつながっている？】

ボランティア、消防団、ボランティアから地域の輪が広がっている場合が多い、ボランティアのご苦労さんという言葉につながりを感じる、サロン、コミュニティ、スポーツ、同じ目的の集まり、趣味、自治会、常会、区、学区、地元の役、仕事、仕事がらみ、子ども会の活動、家族、子供、学校、家族の中の関わりなど。

共通点で絞る

- ①「地域（自治会）」
- ②「趣味・特技」
- ③「仕事」
- ④「家族」
- ⑤「ボランティア」

5

つの要素

今のつながりから考える。

つながりがさらにひろがるためには

5つの要素それぞれに考える。

【 ①地域（自治会） ②趣味・特技 ③仕事 ④家族 ⑤ボランティア 】

対話
共感

①地域・自治会

『強いリーダー』

②仕事

『組合』

③家族

『価値観を理解』

④趣味・特技

『居場所』

⑤ボランティア

『居場所』

これがつながりをさらにひろげるポイント

出来ること、出来ないこと。

つながる為に自分たちに出来ることは？

『居場所』を軸に考え、ハード面とソフト面に分類。
「ソフト面」において自分たちに出来ること。

【出来ること】

イベントを直接知らせる、回覧板をまわす、知らせる努力、知る努力、連絡、自分から声をかける、あいさつ、一人ひとりに興味を持つ、興味関心を持たせる手立てを考える、身の回りに何が必要かを考える、子どもを入れる、強制しないされない、人間関係を知るなど。

絞り込んで見えた自分たちに出来る事

周知

声かけ

あいさつ

興味

居場所と意識のつながるカタチ

「つながりのカタチ」

チーム名

「ふれあい（交流）」

齊丸 章 (稲荷坪区)

菊池 博明 (飯前区)

久保庭 裕一 (前原区)

皆藤 純一 (西郷地区)

中山 清美 (清風台区)

谷津 恵美子 (柴高区)

雨貝 穂 (常磐大学)

永木 清美 (中野谷区)

打越 成明 (希望が丘区)

小野寺 節子 (稲荷坪区)

江間 恵 (西郷地区)

伊藤 葉子 (佐才区)

海老沢 寛樹 (常磐大学)

つながりを考える。

自分なりに考える「今のつながり」

【何でつながっている？】

野菜, 参加しやすい環境, 近所づきあい, 交流の場, 外に出る, 散歩, ゴミ置き場, お土産, ご近所さん, 交流, 道路(歩道), あいさつ, 立ち話, 集い, 世話好きの人, クリーン作戦, 環境美化, 賃借, 仕事, 神社, 仏閣, 祭り, 飲み会, イベント, 運動会(球技会), 葬式, 三世代交流, ゴルフ, 敬老会, 学校, 登下校, 子ども, あいさつ運動, 消防, 街灯, 防犯, 防災など

共通点で絞る

- ① 近所づきあい (地域)
- ② イベント
- ③ 子ども
- ④ 安心・安全

4

つの要素

つながりをひろげるには

「今のつながり」がつながりやすくなるには？

今のつながり, 4つのポイント

近所づきあい
(地域)

イベント

子ども

安心・安全

それぞれのつながりがひろがるには？

「世代交流」
「趣味」

「ボランティア」
「風習」

「ふれあい」

「防災」
「消防」

つながりやすくなるための要素

自分たちに出来る事。

つながる為に自分たちができること

つながりをひろげる要素としての「ふれあい」
「ふれあい」に対して出来る事を考えた

仕組みづくり

(学校との関わり, 参加のメリット, ハードルを低くするなど)

テーマを持ったイベント

(豆まき, 朝市, クリーン作戦, 行事の復活, 芋煮会など)

広報活動

(告知の工夫, イベントの周知声かけ, インターネットの工夫など)

「ふれあい」の為に自分達に出来ること。

グループワークでわかったコト（まとめ）

「つながり＝地域」がそれぞれにある。

「つながりやすさ＝個性」が出る。

「出来ること＝声かけ」が基本にある。